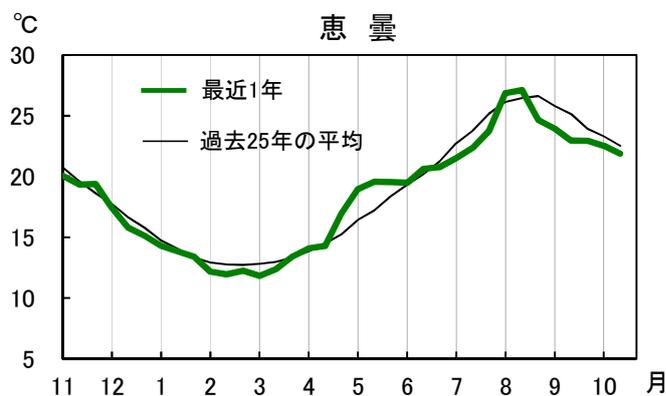
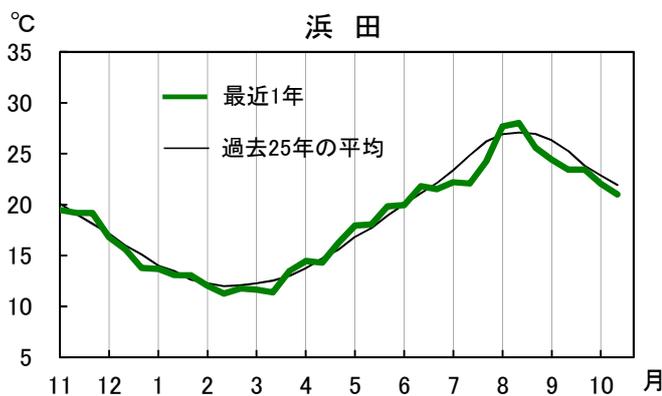




《9～10月の海況》

9月	月平均	平年差	評価
浜田	23.8℃	-1.4℃	やや低め
恵曇	23.4℃	-1.6℃	やや低め

沿岸定地水温は、浜田地区では9月は月上旬が「やや低め」、中旬が「かなり低め」でしたが、下旬は「平年並み」となりました。恵曇地区では9月は月上旬が「やや低め」、中旬が「かなり低め」、下旬が「やや低め」となりました。両地区とも10月に入り、中旬時点で「やや低め」で経過しています。



《9月の漁況》

【中型まき網漁業】

県西部（浜田地区）ではマアジ、サバ類主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は11.4トンで平年を上回りました。全漁獲量の内、主体であるマアジは84トンで平年並み、サバ類は73トンで平年の2倍となりました。西郷、浦郷地区ではカタクチイワシ、マイワシ、サバ類主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は、西郷は49.8トンで平年を下回り、浦郷は41.9トンで平年並みとなりました。全漁獲量の内、西郷ではマイワシの漁獲量が1,045トンで平年の5.6倍、浦郷では535トンで平年の16倍となりました。

【イカ釣漁業】

浜田地区（属地5トン以上）ではケンサキイカ主体（全体の75%）の漁況で、スルメイカ（全体の25%）も混じり、1隻1航海当りの漁獲量は774kgで平年を上回りました。一方、西郷地区（属人5トン以上）ではケンサキイカ（全体の100%）のみの漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は56kgで平年を下回りました。

【沖合底びき網漁業】

浜田港ではムシガレイ主体の漁獲でした。1統1航海当たり漁獲量は12.6トンで前年の1.1倍でほぼ平年並みの水揚げとなりました。主要な漁獲物であるムシガレイは平年の9割で、アカムツは平年の2.0倍でした。その他、キダイは平年の1.2倍、ケンサキイカは平年の6割、アナゴ類は平年の1.3倍の水揚げでした。

【小型底びき網漁業】

和江地区ではカワハギ類とキダイが主体、久手地区ではニギス、アンコウ、ヤリイカ主体の漁況でした。1隻1航海当りの漁獲量は、和江地区では平年の9割、久手地区では平年の8割でした。和江地区ではカワハギ類が平年の1.2倍、キダイが平年の6割、アンコウが平年の7割の水揚げでした。久手地区ではニギスが平年の6割、アンコウが平年の7割、ヤリイカは平年の3.7倍の水揚げでした。またアカムツは両地区共に平年の半分程度の漁獲でした。

【定置網漁業】

石見地区ではサワラ、マアジ、サバ類主体の漁況で、1統当りではサワラ類が平年並み、マアジが2.3倍だったものの、例年よく漁獲されるケンサキイカとその他のマグロ類が平年の7割から4割程度となり、全統の総漁獲量は92トンで平年並みとなりました。出雲地区ではサワラ類、サバ類、マアジ主体の漁況で、1統当りではサバ類が11倍、マアジが1.8倍だったものの、サワラ類を含む多くの魚種が平年並みか平年を下回り、全統の総漁獲量は262トンで平年並みとなりました。隠岐地区ではウルメイワシ、イサキ、ブリ主体の漁況で、1統当りではウルメイワシが平年の3.2倍、イサキが6.1倍、ブリが平年並みだったものの、例年よく漁獲されるサバ類とケンサキイカが平年の1割程度となり、全統の総漁獲量は31トンで平年並みとなりました。

【釣・縄】

出雲地区ではケンサキイカ、マダイ、アマダイが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は21kgで平年を下回りました。石見地区でケンサキイカ、ヒラマサが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は20kgで平年を下回りました。隠岐地区ではカサゴ・メバル類、マダイ、クロマグロ（ヨコワ）が主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は14kgで平年を下回りました。隠岐地区では9月中頃から養殖用種苗としての活ヨコワ釣りが始まり、滑り出しは好調であったようです。

【平成 27 年 9 月の漁獲統計】

漁業種類	水揚港	主要魚種	総漁獲量			CPUE(1隻(統)1航海当り漁獲量)			漁模様
			漁獲量	前年比 %	平年比 %	漁獲量	前年比 %	平年比 %	
中型まき網	浜田	マアジ、サバ類	182トン	80%	95%	11.4トン	110%	133%	◎
	西郷	カタクチイワシ、マイワシ、サバ類	4,134トン	75%	75%	49.8トン	96%	79%	▲
	浦郷	カタクチイワシ、マイワシ、サバ類	1,927トン	64%	74%	41.9トン	116%	100%	○
イカ釣り (5トン以上)	浜田	ケンサキイカ、スルメイカ	151トン	123%	52%	774kg	238%	192%	◎
	西郷	ケンサキイカ	2トン	59%	5%	56kg	150%	39%	▲
沖合 底びき網	浜田	ムシガレイ	327トン	110%	104%	12.6トン	110%	112%	○
小型底曳網	久手	カワハギ類、キダイ	148トン	96%	73%	699kg	116%	91%	○
	和江	ニギス、アンコウ、ヤリイカ	232トン	83%	70%	638kg	102%	78%	▲
定置網 (大型)	浜田	サワラ、マアジ、サバ類	37トン	161%	125%	2.9トン	186%	200%	◎
	美保関	サワラ類、マアジ	94トン	149%	130%	1.1トン	174%	131%	◎
	浦郷	ウルメイワシ、イサキ、ブリ	27トン	278%	167%	1.0トン	300%	152%	○
釣り・縄	仁摩	ケンサキイカ、ヒラマサ	11トン	106%	68%	32kg	128%	84%	○
	大社	ケンサキイカ、ブリ、ヒラマサ	5トン	86%	58%	15kg	110%	75%	▲
	西郷	カサゴ・メバル類、メダイ、クロマグロ(ヨコワ)	3トン	69%	20%	11kg	51%	27%	▲

平年比：過去5年（沖底のみ10年）の平均値との比較 漁模様（CPUE）：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下

【ケンサキイカ情報】

発行日：平成27年10月28日

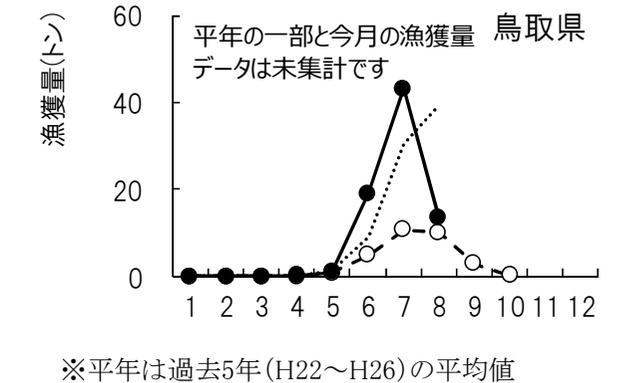
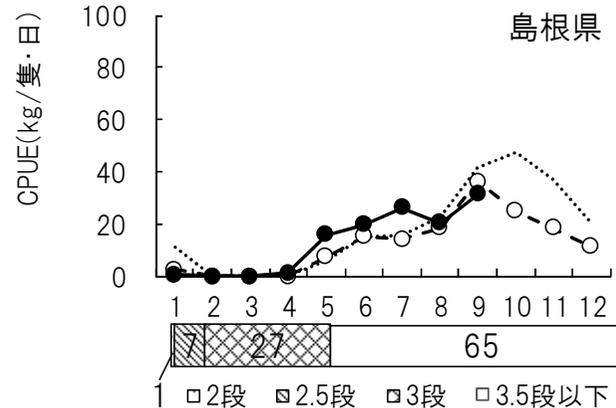
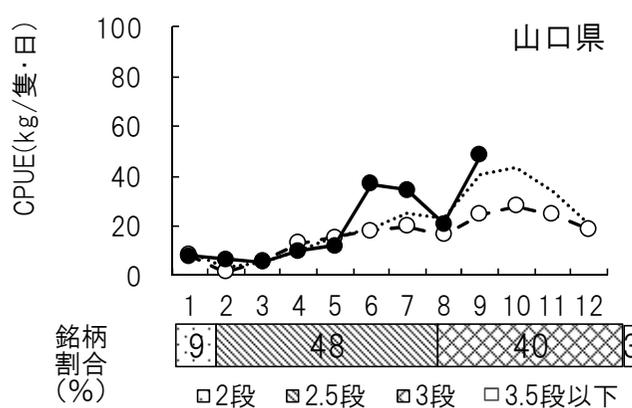
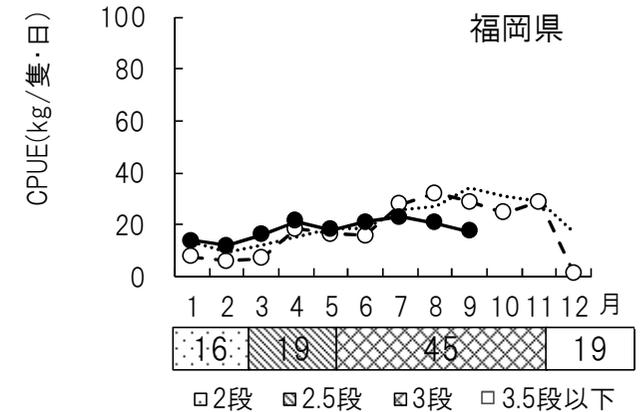
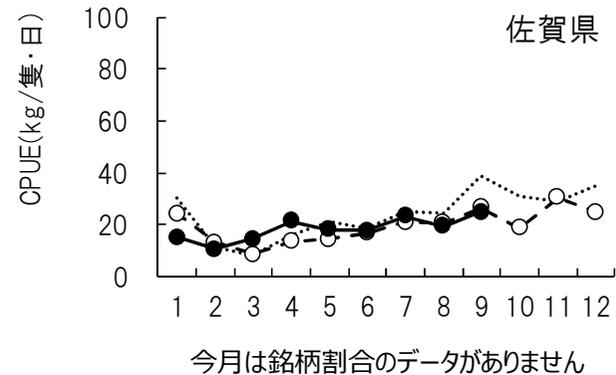
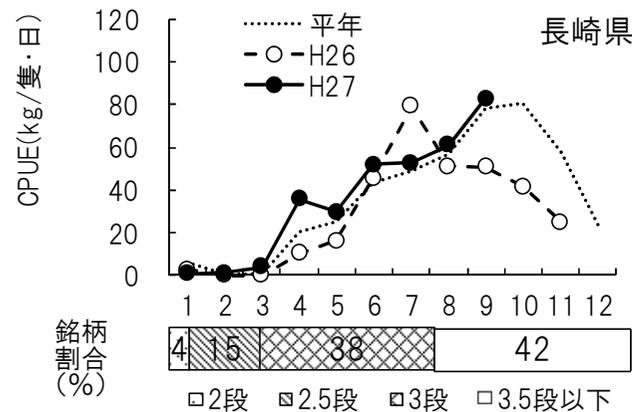
長崎県、佐賀県、福岡県、山口県、島根県、鳥取県の6県で共同発行しているケンサキイカ(地方名：マイカ、シロイカ)の情報(各地の漁況と底層水温)です。

I：9月のイカ釣り漁況

これらの情報は各県の主要漁港データを利用しています。折れ線グラフは漁獲量もしくはCPUE、棒グラフは銘柄割合を示しています。

長崎県～島根県は平年を下回る漁況でした。各県の状況は以下のとおりです。

長崎県	9月の漁獲量は前年並みで、平年を下回りました(前年比120%、平年比64%)。	佐賀県	標本漁港の水揚げ量は、前年、平年を下回りました(前年比57%、平年比40%)。	福岡県	代表港の漁獲量は、前年、平年ともに下回りました(前年比61%、平年比51%)。
山口県	代表2地区の漁獲量は前年並みで平年を大きく下回りました(前年比92%、平年比38%：暫定値)	島根県	主要7港のケンサキイカの水揚げ量は144トンでした(前年比122%、平年比40%)。	鳥取県	8月までの水揚げ量は前年を上回り、平年を下回りました(前年比285%、平年比96%)。9月分の漁獲量については集計中です。



Ⅱ：10月上旬の底層水温

長崎県	データ整理中です。	佐賀県	壱岐水道の底層水温は、22.4～22.8℃でやや低めから平年並み、対馬東海道の底層水温は15.3～21.6℃でやや低めからやや高めでした。	福岡県	沖合域の底層水温は、17～19℃台で平年並みからやや高めとなっています。
山口県	底層水温は13～22℃台で、見島より沿岸域では平年並みからやや高め、沖合域ではやや高めからかなり高めでした。	島根県	島根県沖の陸棚上の底層水温は、水深80～140mが10.0～19.0℃、それ以深が2.3～6.0℃でした。	鳥取県	水深100m前後の底層水温は16℃前後で、先月とほぼ同値です。

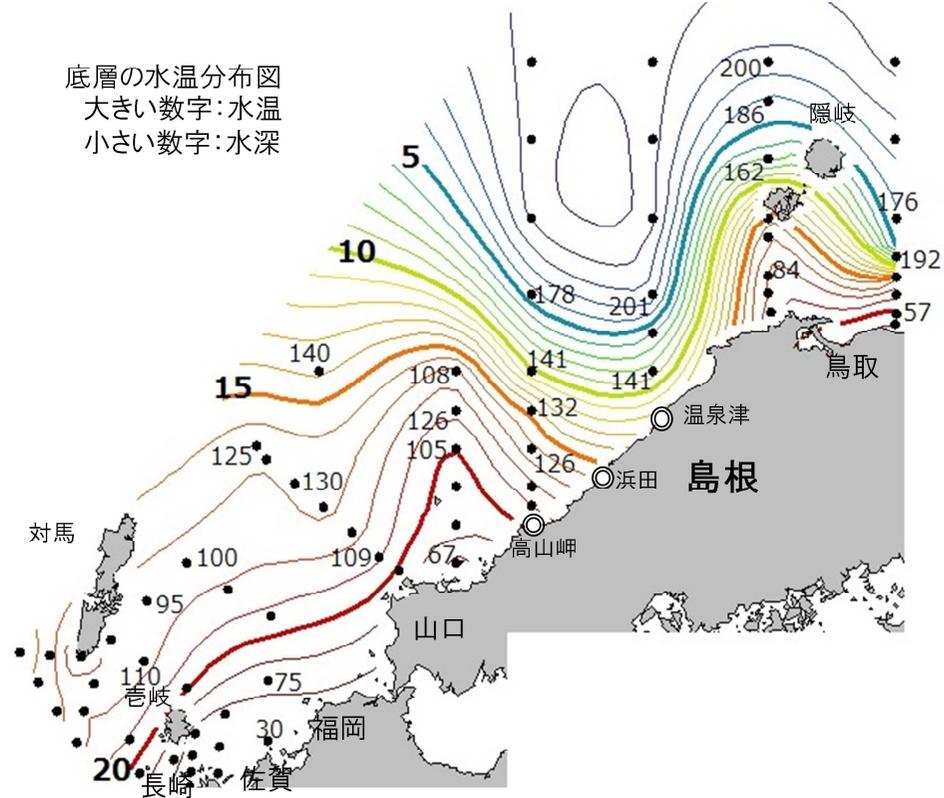


図 長崎県～鳥取県の沿岸域・沖合域における底層の水温分布図